

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する意見聴取会
開 催 日 時	令和6年1月15日（月） 18時30分から20時20分まで
開 催 場 所	市役所別館4階 特別会議室
出 席 者	池田委員、井上委員、井本委員、小西委員、高田委員、新川委員、橋本委員、原田委員、松元委員、矢田委員
欠 席 者	—
案 件 名	1. 第3期枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
提出された資料等の名	資料1 第3期枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案） 参考資料1 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する意見聴取会委員名簿
決 定 事 項	1. 「第3期枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」の内容を確認した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	なし
所 管 部 署 (事 務 局)	総合政策部 企画政策室 企画課

1. 案件1「第3期枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について」

○事務局 案件1「第3期 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について」ご説明いたします。案件資料1をご覧ください。こちらは、新たな総合戦略である「第3期 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の素案になります。第2回意見聴取会でお示しさせていただいた骨子（案）を基に、皆様からいただいたご意見を踏まえ、作成しております。

まず、目次をご覧ください。構成としましては、まず冒頭で策定の経過等にふれております。そのうえで、第1章で「人口ビジョン」を示し、第2章で、その将来見通しを踏まえた「総合戦略」を示しております。それでは順次ご説明いたします。

「～はじめに～」の部分では、策定の経過・趣旨や、策定体制を記載しており、概要は第2回意見聴取会でお示しいたしましたので説明は割愛させていただきます。

続きまして、3ページから8ページにわたり、人口ビジョンを記載しています。まず、「1. 策定の経過・趣旨」で枚方市の人口の現状を記載しています。前回の意見聴取会でご説明させていただきましたとおり、市の総人口は減少傾向であること、年齢構成は老年人口の割合が増加していること、また、自然動態では自然減が加速的に進行していること、転出超過が続いていましたが、令和4年には転入数が大きく増加したため、社会増に転じていることなどを記載しております。

6ページからは、今年度実施しました人口推計調査における推計結果を下に、枚方市人口の将来見通しを記載しております。「(1) 枚方市の将来人口推計」では、今後10年間で約19,900人、30年間で約89,000人の減少となること、他方で、令和2年に実施した人口推計調査の推計結果と比較し、将来の減少幅が緩和していることを記載しています。また、「(2) 年齢3区分人口の将来推計」では、今後も老年人口割合が上昇を続け、令和35年には生産年齢人口とおおよそ1:1の状況になる見込みであることを記載しています。「(3) 自然/社会増減の将来推計」では、社会動態は微減ないし微増に留まるものの、少子高齢化の影響による自然動態の減少が大きく、人口減少が続く見込みであることを記載しています。これらを踏まえ、(4)で「将来展望」を示しています。

第2期総合戦略の計画期間である令和2年度～令和5年度における社会動態については、本市がこれまで取り組んできた子育て・教育施策の充実をはじめとする様々な施策効果や、貴重なまちの資源による本市の特色、強みなどの要因もあり、長らくの社会減の状態から社会増へ転じました。これにより、今回の調査では、令和元年度実施の人口推計調査時と比較して、将来的な人口減少が緩和される見通しとなったものの、依然、総人口の減少や少子高齢化については、全国的な傾向と同様に、進展していく見込みです。

少子高齢化が進展すると、税収入の減少や社会保障費の増加から、財政状況の硬直化の進行による行政サービスの低下が懸念され、人材不足から地域産業や地域コミュニティ等の衰退を招くなど、本市の魅力が低下し、他都市への人口流出の恐れも想定されます。

これを踏まえ、枚方市の将来展望は、【人口の年齢構成の変化に対応しつつ、短期的な展望としては、人口減少の中にあっても都市機能や行政サービスをより向上させることを目指すとともに、2040年問題も見据えた長期的な展望としては、人口減少に歯止めをかけながら、人口の減少曲線をより緩やかにすることを目指す】としております。なお、第2章の「総合戦略」では、2040年における状況の改善を念頭にKGIを設定しており、この人口ビジョンの末尾には、「2040年問題」についてのコラムを掲載しています。

続きまして、第2章総合戦略です。まず、「1. 地域ビジョン」についてです。(1)にあるとおり、地域ビジョンは、人口ビジョンや市が抱える社会課題等を踏まえた、「目指すべき地域の将来像」であり、第3期まち・ひと・しごと総合戦略においては、この地域ビジョンの実現に向けた取り組みを進めていきます。

(2)では、市民意識調査や若者アンケートの結果を踏まえて、市民が求めるまちの姿を検討したこと、(3)では、持続的にまちを発展させる必要があることや、そのためには、生産年齢人口の割合を一定確保することとあわせ、将来的な担い手である子ども・若者世代の定住、転入超過へつなげる施策の展開が必要であることを記載しています。

あわせて、関係人口の創出によりにぎわいづくりや産業の活性化につなげていくことや、デジ

タル技術の活用などにより社会課題の解決を図り、市民生活のあらゆる場面での利便性向上やさらなる市民サービスの向上に取り組んでいく必要があるとしています。

以上を踏まえ、(4)では、総合戦略における本市が目指すまちの姿を、『人口減少が進む中においても、持続可能な発展により誰もが幸せを実感できるまち』としています。

続いて、「2. 総合戦略の基本的な考え方」についてです。(1)では、総合戦略の構成について記載しています。総合戦略には令和6年度からの令和9年度までの4か年の目標や、具体的に取組む施策、効果測定や進捗管理のための指標などを設定し、推進していきます。①目指すべき将来像への進捗状況を測るため、この将来像をゴールとした重要目標達成指標(KGI)を設定します。②取り組みの方向性について、目指すべき将来像の実現に向けて、基本目標を掲げるとともに、基本目標ごとにその達成状況を測る主観的成果指標を設定します。

また、基本目標を達成するために講ずべき目標を施策指標として設定し、その施策目標の達成に向けた具体的な施策は、第5次枚方市総合計画の実現計画である第3期実行計画の施策から設定します。各取り組みの進捗の測定については、市民の主観的な満足度や、各施策の効果を客観的に検証できる重要業績評価指標(KPI)を設定します。

(2)では、「第5次枚方市総合計画」との関係について記載しています。平成28年度を始期とする「第5次枚方市総合計画」は、本市の将来像を示し、その実現に向けて重点的に取り組む施策のほか、広く各部門における取り組みなどを定めるもので、市の全ての計画の基礎となる最上位計画です。このことから、枚方市総合戦略においては、総合計画との整合を図っています。

(3)では、第2次枚方市情報化計画(第3期)との関係について記載しています。総合戦略に係る具体的な施策を推進するにあたっては、デジタル技術の活用は必須となることから、デジタルの力を活用して社会課題解決や魅力向上を図る個別の取り組みや、スマート自治体の推進、全庁横断的なデジタル技術の導入など、まちづくりの基本となる本市の情報化施策については、第2次枚方市情報化計画(第3期)に係る取り組みとの整合を図っています。

(4)では、総合戦略の推進について記載しています。施策の推進にあたっては、引き続きシティプロモーションを推進していくほか、デジタル技術の活用、スマートシティの実現、災害に備える取り組み、安心安全なまちづくり、環境保全などの取り組みについて、まちづくりの基盤となる取り組みとあわせて推進をしていきます。

(5)では、総合戦略の進行管理について記載しています。総合戦略に掲げた施策を着実に実施し、基本目標を達成していくために、毎年度、設定した指標の達成状況等を検証しながらPDCAサイクルによる進行管理を行います。なお、進行管理にあたっては、客観性を確保するために、外部有識者等による意見を聞きながら評価を行います。

続いて、「3. 目指すべき地域の将来像と重要目標達成指標(KGI)」では、主にさきほど触れました「重要目標達成指標(KGI)」について記載しています。KGIとしては、目指すべき地域の将来像『人口減少が進む中においても、持続可能な発展により誰もが幸せを実感できるまち』への進捗状況を測るための指標として、(1)～(3)の指標を設定します。

1つ目のKGIとして、「生活満足度(Well-being)」を設定します。目標値としては、第3期総合戦略の最終年度である令和9年度の値が、令和5年度実績である「6.34」ポイント以上となることを目指します。

次に、二つ目のKGIとして、「令和10年(2028年)1月1日の総人口」を設定し、目標値としては、令和10年(2028年)1月1日の人口を令和5年度人口推計調査の推計人口から0.1%改善させ、387,920人とします。設定にあたっての考え方は次の通りです。現行の第2期総合戦略の策定にあたり実施した、令和元年度の人口推計調査と令和5年度に実施した今回の人口推計調査では、労働力人口の減少が社会全体の深刻な課題になるとされている2040年の推計人口について、約1.7%の改善がみられました。

第3期総合戦略においては、今回調査における2040年の推計人口から、さらに1.7%の改善を目指します。この達成のためには、本戦略期間満了後の2028年当初の人口を今回調査の推計人口から0.1%改善させることが必要となり、それが目標値である387,920人となります。

最後に、三つ目のKGIとして、「令和10年(2028年)1月1日の年少人口割合及び生産年齢人口割合」を設定し、目標値としては、令和10年(2028年)1月1日の年少人口割合を10.3%以上とし、生産年齢人口割合を58.9%以上とします。2040年問題へ対応していくためには、生産年齢人口の割合が重要となることから、2040年の年の年齢構成割合を、今回調査の結果と比較して、年少人口の割合は減少率を0.3%にとどめ、生産年齢人口の割合は0.6%改善することとします。

続きまして、「4. 取り組みの方向性」についてです。(1) ですが、目指すべき将来像の実現に向けた取り組みの方向として、3つの基本目標を掲げ、そこに紐づく施策目標、基本的方向ごとに具体的な施策を設定すること、具体的な施策については、第5次枚方市総合計画の実現計画である第3期実行計画の施策から設定していくことを記載しています。基本目標は、骨子(案)でお示した通りご覧の3つとなっております。また、安全安心、環境保全、人権尊重など、まちづくりの基盤となる施策についても、目指すべき将来像の実現に向け推進していきます。

次に、(2) ですが、「目指すべき地域の将来像」の達成に向けた施策の効果をより明確に分析していくために、重要業績評価指標(KPI)を「リザルト KPI」及び「プロセス KPI」の2つに区分して設定します。

リザルト KPI については、アウトプットとしての具体的な施策の成果が、アウトカムである「目指すべき地域の将来像」につながるまでの過程を測る中間的な KPI として設定しています。リザルト KPI は人口関係指標と主観的成果指標の2種類とし、基本目標に紐づく取り組みを総合的に推進することで、目標達成を目指します。プロセス KPI については、施策目標に紐づく基本的方向ごとの具体的な施策の達成状況がわかるよう指標及び目標を設定します。

22 ページから、基本目標ごと具体的な施策を示していきます。記載例をご覧ください。基本目標1には、施策目標として、1. 安心して妊娠・出産できる環境が整うまち、2. 子どもたちが健やかに育つことができるまち、3. 子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまちを設定しており、これに対応して、リザルト KPI である主観的成果指標として、それぞれ「安心して妊娠・出産できる環境が整っていると感じている市民の割合」「安心して子育てできる環境が整っていると感じている市民の割合」「子どもたちへの教育環境が充実していると感じている市民の割合」を設定しています。

施策目標「1. 安心して妊娠・出産できる環境が整うまち」では、基本的方向として、「妊娠・出産を望むすべての人が、安心して子どもを産み育てることができるよう、母と子の心身の健康づくりを進めます。」を設定しており、その達成状況を測るため、それぞれについて「プロセス KPI」を設定します。なお、現在令和6年度当初予算の査定を実施中であり、具体的な取り組みや KPI の内容については、今後、精査していきます。

以上、簡単ではございますが、案件1「第3期 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について」の説明とさせていただきます。

●質疑・意見交換

- 井上委員 12 ページに総合戦略の進行管理における PDCA の記載があります。これは、プロセス KPI の進捗管理を行うという理解でよろしいでしょうか。
- 事務局 プロセス KPI とともにリザルト KPI である主観的成果指標もあわせて進捗管理を行います。主観的成果指標については、毎年実施する市民意識調査にて把握することとしています。プロセス KPI については、それぞれの施策の進捗管理により行います。プロセス KPI の達成状況で、どれくらい目標に効果があったのかを判断し、毎年進捗管理を行っていきたいと考えています。
- 井上委員 分かりました。最終的な目標としては KGI だと思いますので、リザルト KPI やプロセス KPI の達成が KGI にリンクするのか、進捗管理の中で見極めていただきたいと思います。
- 原田委員 KGI の生活満足度 6.34 以上について、6.34 が良いのか悪いのか分かりません。他はパーセントで表示されており分かりやすいのですが、この 6.34 はどういった数字なのでしょう。
- 事務局 生活満足度は国が調査しているもので、枚方市でも同じ質問項目で令和5年度に調査しています。国の調査では令和4年度の全国平均が 5.76 と出ており、これに対して今回枚方市の調査では 6.34 という結果が出ており、比較的高いという判断をしているものです。そのため、6.34 を上回る形でより高い数字を目指すという観点で目標を設定しています。
- 原田委員 最大値は何点ですか。
- 事務局 10 点満点になります。
- 新川座長 これは、いろんな指標の合成指標でしょうか。
- 事務局 単一の質問です。
- 原田委員 国より高く目指すということですか。
- 事務局 現状、全国平均より 0.6 ポイントほど高く出ておりまして、この高い傾向をさらに向上させていくということです。

○新川座長 最低限でも現状維持ということですね。

○高田委員 16 ページの取り組みの方向性で、基本目標 1、2、3 とありますが、前回の 2 期総合戦略と比較すると基本目標 2 の 5 番目と基本目標 3 の 7、8、9 が加わっているかと思いますが、経緯の説明をお願いします。

○事務局 基本目標における差分について、基本目標 2 の部分は、5 の「障害者が自立し、社会参加ができるまち」を追加しております。この部分は、地域福祉としての一つの大きなくくりとして、自立を図っていこうということで市民のみなさんが住みやすいまちにするという観点から追加しております。

また、基本目標 3 の「産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める」について、追加の項目は 7 以降となっています。7 の「誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち」は、枚方市がスポーツでいろいろな取り組みに力を入れており、また、総合文化芸術センターが開館して以来たくさんの方が来られていることで、文化芸術の関係の主観的生活指標が上がってきたという経緯もあり、魅力としてしっかりと発信していく必要があるという観点から追加しております。また、8 番、9 番については、現在も検討中ですが、東部地域の豊かな自然、里山の魅力をさらに発信していかなければならないという観点から追加しております。

○井上委員 26 ページの「3. 子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち」の (1) について、やはり住みたいまちになるためには、教育のレベルや環境がすごく大事な要素の一つであると思います。その中で、このページには具体的に小中一貫教育、言語能力・思考能力、国際化に対応した英語によるコミュニケーション能力というキーワードが入っていますが、プロセス KPI の方がキーワードとリンクしていないのでは。

○事務局 取り組みの内容については、案としてお示ししております。KPI についても 2 期の部分から見直し・反映していますが、まだ検討中のものもあります。前回の意見聴取会でも KPI が最終の目標に繋がるような指標設定をすべきだのご意見をいただいておりますので、KPI の設定作業については、慎重に、ご意見をしっかりと踏まえて作業していきたいと考えています。

○井上委員 これが最終版ではないということで承知しました。

○池田委員 KGI の表にある数字ですが、KGI は達成指標だと理解していますが、総人口 38 万 7,920 人、年少人口割合 10.3%以上、生産年齢人口割合 58.9%以上を目標としていますが、もしも、このいまの状態、枚方市が何もしなければどういった数字になると想定されるのでしょうか。目標値と何もしなかった場合の値ではどれくらいの乖離になるのでしょうか。

○事務局 総人口については、推計の値でいきますと 2028 年（令和 10 年）の場合、総人口は 38 万 7,533 人で、360 人くらい少ない値です。生産年齢人口割合については、58.4%で 0.6 ポイントほど少ない値で、年少人口割合については、10.6%で変わりありません。

○池田委員 ここで掲げている KGI の数字は、自然体で推移したとしても、そんなに劇的に差が開くような数字ではないという感じがします。2028 年はそんなに先の話でもないので、効果が出てくるのはもっと先であり、2028 年は途中経過として設定されていることと思います。

また、KPI について、先のページにある出産できる環境が整っている方の満足度の値に比べ、子育てできる環境が整っていると感じている方の割合の方が少し高いです。いろいろな地域の方と接する機会があるのですが、転入される方の傾向を見ていると、お子さんがいる状態で入ってくる方が多い印象です。大きめの家が枚方市に建ってきているので、子供部屋をちゃんと考えた上での入居の方が多いというのが私の感想です。出産を考えている世代は、今のところあまり来っていないのではないのでしょうか。

また、もう少し周りを見てみると、産婦人科をあまり見かけません。需要が減れば供給も減るということで、もし需要を増やそうとするのであれば、供給も増やす必要があります。もしもこれから妊娠を考えている方を含め、本気で迎え入れようとするのであれば、満足度 34.7%は生の声が反映された数字なのかなという印象です。要するに出産するにもどこの病院に通おうかな、どうやって通院しようかなと場所によっては考えなければいけない状態に枚方市はなっている気がします。特に新興住宅地が建っているあたりを見ても、学校はあるがその手前の幼稚園・保育所が近くにありません。

小学校より上に関してはまだ通いやすいですが、その手前が少し不便であるという印象を受けます。このあたりのインフラ整備を市で主導していくというのは、なかなか難しいのかもしれませんが、考えがあればお聞かせください。

○事務局 就学前の施策の位置づけについて、子育てしやすい環境の整備を基本目標 1 に記載しており、その中で施策を打ち出していくこととなります。先ほどの委員のご発言は、まさに成果指標の数字が現実を表しているのではないかというご意見かと思っております。ご意見のとおり、産院などの医院を市主導で設置することは難しいため、こういった環境が整っていると感じてもらうために、どのようなものが必要なかといったニーズ調査を踏み込んでやっていく必要があります。子ども施策は、今後、特に本市で力を入れてやっていく分野としており、そういったニーズに対してしっかりと取り組んでいけば、関係する指標も上がっていき、魅力を高めていけるのではないかと考えています。

○新川座長 教育・保育については、質量の確保・改善というものが大きな論点ですが、プロセス KPI を見てみますと、待機児童数のところがもっぱら目標値になっていて、これでよいのかどうか検討する余地があるかもしれません。

○高田委員 関連してですが、先ほどの保育とかそういった施設のインフラ整備については、なかなか市主導では難しいということでしたが、都市計画マスタープランへの落とし込みはされていますか。

○事務局 都市計画マスタープランまでは把握できていませんが、子ども施策の担当部署では市域をエリアごとに分け、その中で保育所等の配置について計画を持っています。

○高田委員 具体的な取り組みは、都市計画マスタープランに落とし込まないと実現はなかなか難しいものもあるので、そこを考えると何かしらの解決の糸口が見えるかと思いました。

○橋本委員 おそらく枚方市周辺の市町村でも人口増のまち、例えば高槻や豊中は人気だと思います。社会全体の人口が減少しつつある中で、少しでも人口減少の曲線を緩和させる、そういったことを考えた時に、枚方市はどういった方をターゲット層にしていくかという点が重要だと思います。生産年齢人口といってもかなり幅が広いですし、子育て世帯についても他の委員からお話がありましたように、いろいろな年齢のお子さんのニーズとか親御さんの要望も人それぞれ違うと思います。

枚方市として、どういったターゲット層のニーズに応えることができるのか。そのあたりが他市のターゲット層に負けてしまうのであれば、そこに投資してもあまり効果として現れない可能性もあります。やはり周辺市町村のターゲット層を考慮しながら、このターゲット層だったら枚方市はこういうことができるよということも、後々整理しながら進めていく方が、あまり投資しなくとも割と高い効果を得やすいのかなと思います。

○新川座長 事務局もそのあたりを参考にし、最終案に向けてご検討いただければと思います。

○松元委員 目標値が 38 万人となっていますが、これをクリアにすることによって、本当に枚方が持続可能なまちとして機能を維持することができるのでしょうか。施設的なものであったり、財政的なものであったり、いろいろな課題はあると思いますが、果たしてそれが可能なのかというところをお伺いします。

また、中身の考え方の部分ですが、前回の第 2 期総合戦略の策定時のお話では、外からの流入を目指そうというのはどこのまちでもしていることですが、今枚方に住んでいる人に居続けてもらおうという観点や、将来生活する場所として枚方に戻ってきてもらおうという観点が特徴的だったと記憶しています。

今回はどちらかと言うと、外から人を呼んできましようという文脈なのかなという印象です。前回目指すべき将来像のところが、文章のボリュームとしては 10 行くらい書かれており、また、その取り組みを行政だけではなく、企業や市民団体と連携して取り組みましようというところが記載されていましたが、今回は行政として頑張りますとこじんまりとしてしまっているように思います。第 2 期の観点から方向が変わってしまったと感じますが、市として意図はありますでしょうか。また、市に関わる人達との連携を第 3 期ではどう考えておられるのかお伺いします。

○事務局 持続可能なまちの姿については、今回、人口推計調査をするにあたって、その具体的基準を探っていたのですが、数字設定は困難でした。近隣でも 10 万人を切っている市もあれば、枚

方よりも大きな市もあり、それぞれの地域特性や事情も考えなければなりません。

また、前回の第2期総合戦略でも、人口の取り合いは意味がないというご議論がありましたが、最終的には移住促進の観点も必要であるというまとめをしています。今回の第3期でも、いま市内に住んでいる方の暮らしをより良くして、住みやすいところであると思っていただくことで、外の人も枚方市に魅力を感じ、自然と枚方に来てもらえる人も多くなるのではないかとすることを軸に置いて考えています。表現については工夫をしたいと思います。

事業者や市民団体との連携については、今の時点では表現できておりません。2期総合戦略における考え方は変わっておりませんので、ご意見を踏まえ追記する形で修正します。

- 矢田委員 23ページ以降に具体的施策のプロセスKPIとして令和9年度の目標値を設定されていますが、この目標値だけだと市民の方に見ていただいた時に、それが高いものか低いものかなど、比較するものがないと分かりません。通常、目標値を定める時には、現在の数字を合わせて示すものだと思いますが、現在の数字を示していない理由を教えてください。
- 事務局 現在、このKPIの設定にかかる庁内調整を行っているところです。第3期総合戦略では令和6・7・8・9年それぞれの目標値を設定する予定にしています。各年度の目標をしっかりと達成できているかという見せ方にしていきたいと考えています。
- 新川座長 表記の見せ方としては現状値を踏まえた各年度の目標値KPIが記載されるイメージになるのでしょうか。
- 事務局 そのとおりです。
- 小西委員 近隣都市の同じ総合戦略の会に参加していますが、基本目標や子育て関係で外から人を引っ張ってくるなどの項目はほぼ一緒です。少子高齢化は全国レベルの問題で、高齢者が増え、出生率が下がっていけば、人口が減少していくのはどの市でも当たり前だと思います。その中で、もっと枚方市の職員の知恵を生かして、何か尖った目標を立てるなど、もっと枚方にマッチした要素が必要だと感じました。
- 井本委員 枚方市の社会移動は直近だと微増になっています。出て行く人、入ってくる人それぞれの理由の裏取りはしているのでしょうか。それが分かれば、枚方の魅力やアイデンティティが分かるのではないのでしょうか。素晴らしいから来たということであれば、それを公表していかなければいけないし、これが不足しているから出ていってしまったということであれば、見直さないといけないのではないのでしょうか。
枚方が魅力的で本当に住みたくなるようなまちということの要因として、何があるのだろうかという感じで、はっきりとしたものがありません。私も外から来ているため、ここにずっと住まわれているという委員の方で、はっきりとした枚方の魅力があれば教えていただきたいです。
枚方にそういうポイントはありますか。数字だけ見てどう動いているかの判定をするのではなく、こうした分析をしないと戦略の方向性は出ないと思います。
- 池田委員 主観ですが枚方という土地に住んでおられる方の特徴は、安定志向です。尖ったものがなく、土地に特色があるわけではありません。つまり波風が立たない印象です。淀川がありますが、自然災害が頻繁に起きていながらも、災害に強いまちというイメージがあります。
また、枚方の外に少しいたことから分かる部分でいいますと、枚方は安心のまちだと実感しました。ただ住むにはよいのですが、その代わりにぎわいもないので、何かしようにもできない歯がゆいまちであると感じています。
- 井本委員 たしかに枚方は特長がないですが、住みやすい、安定している感じはあります。なんでもそろっていて、関西圏のどこにでも行ける立地的特性もあります。例えば、愛媛の松山市は、夏目漱石や正岡子規などで有名ですが、飛びぬけたものがなくても、様々なものがそろっており、住みよいというまちです。枚方もどこか似ている感じがします。そういった良さを自分たちも気づいていないのではないのでしょうか。
- 池田委員 どこにでも行きやすいからみなさん行った先でお金を落とすため、地元にはほとんどお金を落としません。他所から観光客が押し寄せることもないので、住んでいる方からすれば安心できます。しかし、商売をしている人にとっては過酷なまちかもしれません。こんなに人が住んでいるのに全然客が来ないと思っているのではないのでしょうか。
- 井本委員 樟葉は都心と比べると物価が安いし住みやすいです。尖った魅力はないのかもしれませんが、あれだけ何でもそろっていると便利です。こういった魅力は失われた時に初めて気づく

良さです。

○新川座長 尖ってなくても安心して安定していて、一定条件が整っている。こんな素敵なまちはない、といったものの見方をどういう形で持続可能にしていくのか。今いただいたご意見の方向でいくとすれば、そういう総合戦略もありだと思います。

○井本委員 どういう形で表現、アピールするかが重要です。

○新川座長 重要なキーワードをいくつか出していただいたので、むしろ基本的な考え方や大きな目標を立てられる時にそういう要素を重点に置くと、人口目標などを掲げる方向づけはできるかもしれません。

○原田委員 この総合戦略は民間に関わる要素が少ないと思います。枚方市駅も再開発していますが、民間の部分によるところの影響は大きいのではないのでしょうか。例えば、高齢の方で地域の環境で車を使わなくなった場合、スーパーに歩いていける距離にあるかないかが重要です。光善寺でスーパーがなくなって買い物難民になったという声もあったかと思いますが、まちがどうというよりも単純にスーパーがないとなると不便になる、コンビニがないから不便になる、ということがありますが、そういうところは完全に民間任せです。

若者アンケートではにぎわいが足りないというお話もあったと思いますが、その他によく聞くのは仕事がないというものです。枚方市が気に入って住んでいるけど、仕事がないのであれば、これは枚方に住まないということにつながります。ベットタウン的な要素であれば、枚方市はそれなりに新築購入などの需要がありますので、人口の増加に繋がってくると思います。このあたりは開発をする民間の住宅会社が重要な役割を担っています。市民アンケートの結果に出てくるのは、民間の活動に影響するところも大きいと思われるので、民間にも役割を担っていただかないといけないのではないのでしょうか。

行政が施設や場所を活用していくことはもちろんですが、お話にあった樟葉の駅前広場を活性化するのも一つでしょう。しかし、それは、くずはモールに良いテナントが入ってという民間の力によるものです。指標化は難しいとは思いますが、創業支援などの取り組み以外で、例えば、近くにスーパーが何件あるとかそういった指標もあっても良いのではないのでしょうか。

○井本委員 そういった開発に関して行政が指標を測って進捗管理していくは難しいとは思いますが、個々の小さい企業に協力してもらおうというのではなく、例えば一番大きいベースとなる鉄道会社である京阪電鉄のような企業がキーとなるだろうと思います。くずは・枚方・香里園というまちは鉄道会社主導で特急などを止めた方がいいのではないかという話があり、そこから開発が動き始めたと聞きました。

京阪電鉄のような大きな会社がそれなりに意識を持って開発するリーダーになってくれると、それに伴って、各企業は集まってくると思います。それに対して行政がフォローするような役割を担ってもいいのではないのでしょうか。行政が先頭に立ってしまうと企業はついてきません。機運を高めていくようなやり方、フォローするやり方であれば、少しずつでも手を挙げてくれる企業がでてくると思います。企業がまちを経営するという視点です。

○原田委員 現状、枚方市は民間企業と意図的に距離を取っている印象があります。他の地域で、人口減少をものに受けているところに行くと、行政の方と民間の垣根が低く、距離が近いです。おそらくそういうことを気にしてられない状況なのでしょう。

枚方市はちょうどよく安定しているので、まだそこまで積極的になる必要はないのかもしれませんが、こういう目標を立てて、大きなところで策を出されるのであれば、もう少し距離感、垣根をなくしても良いのではないのでしょうか。これだけ人口が下がっていくということであれば、方向性としては公民がもっと一体となってもよいと思います。

○井本委員 それぞれが参画しての相乗効果が生まれる場づくりが大事です。その場づくりをフォローする姿勢をもう少し市が見せてくれたら、企業ももう少し動くのではないのでしょうか。

○新川座長 にぎわいづくりは今回の総合戦略でも重要なポイントになっていますが、どういうきっかけづくりやどういう働きかけ方を具体的にできるかが重要です。もう少し市のスタンスや働きかけの方法など工夫が必要です。基本的な方向やその中でのそれぞれの施策の検討としても進めていただきたいです。

もちろん基本的な安定した安全なまちとのバランスも必要です。一方で、その安定したまちを維持していくためにもにぎわいや活気をどうそこに上手く結びつけていくことができるか、仕事を作れるか、端的に言えば逃げていくスーパーやコンビニをまた呼んでくる力が地域にできるか、

あるいは誘導できるような市になるか、そういうところが改めて問われており、全体として住みやすいまちとしての活力やにぎわいが感じられるまちが必要とされているのでしょうか。もちろん民間や市民の力が大きいことは間違いありません。そういう力を引き出すような戦略の立て方を意識的に作ることがこの4年間の課題でしょうか。

- 池田委員 今後、ニーズ調査をされるとのことですが、スーパーが近くにないなど最低限インフラとして必要なものさえ周りにないというのもニーズのひとつだと思いますが、そういったものもニーズ調査の項目にいられてはどうでしょうか。
- 新川座長 生活満足度に影響しそうな、ある種の地域のインフラに関する項目ということでしょうか。
- 池田委員 地元で気軽に買い物できる場所が生活圏にきちんとあるとかそういった情報が、ニーズ調査においてエリア単位で特定できれば、例えばここにニーズがありますよと市が持っているデータを民間事業者などに情報提供し、出店の計画を提案できないものでしょうか。企業にとっても魅力ある話だと思います。にぎわいまでいかずとも、まずは、住みやすいまちであるという最低限の根本を揺るがさないようなまちを構成していくためにもある程度必要な部分ではないかと思えます。

また、生活に必要なものは年齢層によっても変わります。高齢者層の増加によって徒歩の方が多くなっており、バス路線がだいぶ廃止されて不便を感じている方などニーズが変わってきていると思えます。そういった状況をエリアで分析できるよう再調査した方がよいと思えます。
- 井本委員 安心安全で住み続けられる、さらに満足して住み続けられる、そういった生活の質に市が力を入れて、コミュニティとしての生活の質を上げていく。そういったことができているエリアは住みやすく、満足度が高くなっているのだと思えます。
- 池田委員 ここで足りているものはこれ、一方で、ここで満足を得ていないものはこれ、など差がどこにあるのか把握する必要があります。
- 井本委員 QOLは医療の観点ですが、QOCL（クオリティオブコミュニティライフ）といったコミュニティ単位でそのレベルが揃うように、エリアのコンシェルジュのような存在がコントロールする形がとれないものでしょうか。その役割は民間の会社が担うでもいいのかもしれませんが。行政はもっと広い目で見てコントロールする必要があるのではないのでしょうか。
- 新川座長 コミュニティライフを考えてもいいのではないかとご提案をいただきました。地域での生活満足度を高めていく時に、こうした地域生活やコミュニティライフを一つの拠り所とするという考え方も当然あります。
- 松元委員 今満足している状況は、決して市だけが作っているものではなく、民間企業に限らず自治会などのレベルの話でもあると思えます。それを維持していくことも、まちにとっては大事なことです。そしてこれを総合的に見ることができるのは市役所だけだと思います。現状、枚方市は比較的恵まれている状態だと思いますので、今の段階から民間の力を高める働きかけをしつつ、市としてはマネージャーとしての立ち位置からまちをコントロールしていくことが大切だと思います。2040年までの向こう16年を見据えると、市役所の位置づけを見直すことも必要です。
- 井本委員 私たちもコミュニティマネジメントという言い方をしていますが、それを行政が先頭に立ってやると上から言われている感じがしてしまいます。企業や行政が複合体として、それぞれがwin-winの関係になるよう調整するのが良いのではないのでしょうか。
- 池田委員 行政は企業と違って俯瞰的に情報収集や情報提供をしやすいと思えます。要するに、市民の意見をあまねく徴収して提供すべきところに提供する、そういったサイクルを設ける機関になるべきだと思います。なかなか一般企業がみんなに意見を聞くというのは難しいですし、企業側も情報は欲しいと思えます。
- 新川座長 行政の役割として、管理をしたり指導をしたりということではなくて、むしろ、市民や民間の人達が判断に迷っているような時に、いろんな的確な情報を提供するという事を通じて、皆さん方のご判断というのをより安定的な街づくりに方向づけるというようなやり方は確かにあるかと思えます。これからのDX化でどれくらいその能力が市として高まるかというのも重要な点かと思えます。

本日もいろいろ重要なお意見いただきました。まず1つ目に、KGI、リザルトKPI、プロセスKPIはきちんと繋がるのかというご指摘です。毎年毎年成果が上がっているのかという観点から、そ

それぞれの指標間の関係を丁寧にチェックしていく必要があります。その中で、必要があれば見直していくということも恐れずにやっていかなければならないのだろうと思います。その点でも毎年毎年のPDCAをきちんと回していくということが重要だと思いました。

2つ目に、今回やはり皆様から多く意見がありました枚方市として足りないものとしては、活気とかにぎわいではないでしょうか。もちろん闇雲にということではないのですが、若い人たちにターゲットを絞った場合に、仕事や楽しみをどうこのまちのなかで、あるいはこのまちに住みながらそういうニーズを満たせる方向をどうやって見つけ出していくのかということ。これからどういう人たちに住んでもらいたい、あるいは帰ってきて欲しいと考えることと併せて、今から戦略的に考えていってもいいのではないかと。というご意見です。もちろん定住人口だけではなく、関係人口といった観点もあるとは思いますが、住んでくれなくてはやはり収入にはならないので、やはりターゲット層というのをきちんと絞って考えていくことが大事ななと思いました。

3つ目には、やはり教育にしても福祉にしても、あるいはその他にしても様々な地域のいわば生活インフラというようなところを整えていく必要があること。そして、地域で実際に暮らしておられる市民の方々の生活満足度を高めていくという観点が重要だというご意見です。そのためにも施設計画や都市計画マスタープランのような、どういう形で地域の暮らし方というのをより安心安全以上に満足度の高いものに仕立てあげていくのかという観点・視点が大事であり、それを行政がどこまでできるかというのは別にして、そういう方向を目指していますということが言えるかどうか。人それぞれに足りているもの足りないもの、そういう情報をきちんと提供し続けることが大事だと思います。

4つ目は、やはり今の議論と重なりますが、安定が魅力の枚方市での暮らし。しかし安定だけでは先細りになってしまうかもしれませんので、そこに持続可能性というものをどう合わせて付けていくのかというのが問われているというご意見でした。安定させるための持続可能な方策を考えていく、いわばこのまちに住み続けていただくための具体的な条件というのを常に探し続けるというのが、大事であるようです。市が俯瞰的にものごとを見ながら市民生活の条件というのを常にチェックをし続ける。そういった観点が必要ではないかというご意見をいただきました。

5つ目は、住み続けることができる、住みやすいということになっていくためにも、やはり民間の力が必要であること。これは市民一人ひとりの力もありますし、いろんな地域の団体、町内会、自治会、福祉団体もありますし、いろんな活動があります。また、当然のことながら事業者の方々、小さいのも大きいのも含めて、そうした力の活かし方というのがきちんとこの戦略の中にも反映をされていること。また、多くの活動というのが誘導されて、それが住みよさや枚方の魅力に繋がっていくという方向づけを考えていただかないといけないというご意見をいただきました。

行政の役割、何もかも行政がこれをやれ、あれをやれと言って、引っ張っていくということではなくて、むしろそういう市民生活というのも、一人ひとりが考えそして企業あるいは地域の団体の皆さんが考え、行動していく。その際の方向付けや必要な情報を市が提供するというような観点も行政として重要だというご意見をいただきました。具体的な目標や指標を設定する中での方向付けの際に、今のような視点をしっかりと踏まえ、総合戦略づくりを進めていただければと思います。少しまとめたような話をしましたが、委員の方からも、足りない観点などあれば、最後に聞いておきたいと思いますがよろしいでしょうか。

それでは、いろいろとご意見いただきましたけれども、しっかりと踏まえて戦略の策定を進めていただき、施策については、既に総合計画や行政計画があって、そちらで進めておられるところもあるとは思いますが、それらも併せてこの総合戦略の目的・目標というのがしっかりと達成できるように進めていただければと思います。本日予定をしておりました案件は1件だけですので、第3回枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する意見聴取会は以上で閉会とさせていただきます。